



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジを支えます。
応援します。農業普及

みやぎの 12月号

農業普及現場

NEWS LETTER No.178 2021.12

紹介内容 (11/1~11/30)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技术の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援 1
 - 亘 理農改：農業士会と4Hクラブが合同研修会を開催しました
 - 仙台農改：令和3年産大豆の収穫作業が本格化しました
 - 石 巻農改：大豆の刈取に向けた現地検討会が開催されました
 - 亘 理農改：しゅんぎくの現地検討会が開催されました
 - 仙台農改：株式会社イグナルファーム大郷で栽培振り返り検討会が開催されました
 - 仙台農改：農事組合法人仙台イーストカントリーが令和3年度（第60回）農林水産祭にて天皇杯を受賞
- ② 新たな担い手の確保・育成 2
 - 登 米農改：第2回「女性農業者活躍支援研修会」を開催しました
 - 石 巻農改：石巻地区4Hクラブ10月青空市の開催
 - 大 崎農改：大崎市岩出山下真山地区農地整備事業に係る土壌調査を行いました
 - 亘 理農改：みやぎ農業未来塾「農業力資質向上講座」を開催しました
 - 大河原農改：みやぎ農業未来塾 地域交流講座「果樹編」を開催しました
 - 登 米農改：登米地区農村生活研究グループ生活改善実績交流交歓会を開催しました
 - 亘 理農改：亘理名取地区農村青少年クラブ連絡協議会が先進地視察研修を開催しました！
 - 大 崎農改：大崎地域農村生活研究グループ連絡協議会の第3回役員会を開催しました
 - 登 米農改：みやぎ農業未来塾「土壌の基礎知識」研修会を開催しました
 - 仙台農改：女性農業者がトラクターと刈払機のメンテナンスや操作方法を学びました
 - 栗 原農改：有壁創生会・有壁新町営農組合第2回法人化研修会
- ③ 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援 5
 - 石 巻農改：アグリテックアドバイザー派遣事業を活用したほ場管理システム（KSAS）の研修を実施しました
 - 仙台農改：第3回栽培コンサルティング技術高度化セミナーが開催されました
 - 亘 理農改：ほ場管理システムの有効活用を目指し研修会を実施しました
- ④ 園芸産地の育成・強化支援 6
 - 亘 理農改：カーネーションのIPM・産地表示販売検討会を開催しました
 - 栗 原農改：スナックえんどう栽培講習会が開催されました
 - 亘 理農改：山元町でトマト栽培のグロワー技術交流会が開催されました！
 - 亘 理農改：JAみやぎ亘理いちご栽培講習会が開催されました！
 - 登 米農改：登米市産花きと生花店のコラボ企画第4弾「ハロウィン」特別販売会開催
 - 石 巻農改：やもといちご生産組合現地検討会に参加しました
 - 亘 理農改：岩沼ハウス組合抑制きゅうり出荷検討会と第50回通常総会が開催されました！
 - 気仙沼農改：枝もの用クロマツの収穫・調製作業開始 ～出荷第1弾は台湾へ～

- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援 8
- 大崎農改：大豆種子のほ場審査を行いました
- 石巻農改：新米販売会を開催しました
- 石巻農改：アスパラガス栽培管理勉強会の開催
- 亘理農改：岩沼市でばれいしょ生産拡大推進研修会が開催されました

2. 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

- ① 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援 9
- 栗原農改：匠の農産物フェアが開催されました
- 美里農改：令和3年産大豆の適期刈取に向けた現地検討会が開催されました

〈令和3年度農林産物品評会〉

- 農業振興課：令和3年度農林産物品評会が開催されました
- 気仙沼農改：宮城県農林産物品評会及び花き品評会で気仙沼管内生産者5人が入賞しました！
- 仙台農改：宮城県花き品評会で管内のピオラが金賞を受賞しました
- 石巻農改：令和3年度宮城県農林産物品評会 水稻（うるち玄米）の部で農事組合法人みのり（石巻市北上）が「農林水産大臣賞」を受賞しました！
- 栗原農改：宮城県農林産物品評会ならびに花き品評会で農林水産大臣賞をダブル受賞

3. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展 11
- 大崎農改：色麻町の特産物「えごま」の収穫が行われました
- 石巻農改：河北せりがG I 産品フェア in 東北に参加しました！
- 大崎農改：「古川まごころ市」が開催されました！
- 気仙沼農改：「JA新みやぎ南三陸地区本部農産物共進会及び表彰式」が開催されました
- 気仙沼農改：集落農業の将来について意見交換！ ～気仙沼市 表山田地区～
- ② 大規模自然災害等からの復旧・復興に向けた支援 13
- 石巻農改：オリーブの収穫が始まりました

4. その他

- ① 要請・緊急対策、その他 13
- 仙台農改：特定家畜伝染病防疫演習でサポート業務を行いました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○農業士会と4Hクラブが合同研修会を開催しました

令和3年11月9日

亶理農業改良普及センター



10月29日、亶理名取地区農業士会と亶理名取地区農村青少年クラブ連絡協議会が合同で研修会を開催し、14名が参加しました。

当日は「5年後に大きな差がでる経営計画の立て方」と題して、HS経営コンサルティング株式会社の本田茂氏を講師に講義が行われ、受講者それぞれが自身の経営の10年後のビジョンを考え、それを達成するための目標設定を行いました。

参加した受講者からは「実際に計画を書くことで、新たな気づきがあった」等の感想もあり、とても有意義な時間となったようです。

普及センターでは、引き続き、地域農業を担う農業者への支援を行ってまいります。

○令和3年産大豆の収穫作業が本格化しました

令和3年11月17日

仙台農業改良普及センター



J A仙台管内では大豆の作付面積が約1,100haとなっており、中生品種のタンレイ及び晩生品種のミヤギシロメが栽培されています。主な担い手は地域の農業法人で、J A仙台が11月4日に開催した大豆生産部会協議会では、「汚粒の発生を防ぐためコンバインで丁寧に刈り取ること」など、留意点が再確認されるとともに、機械整備等の収穫作業に向けた準備が進められました。

収穫が始まった頃にまとまった降雨があり、作業が一時停滞しましたが、ようやく天気が安定してほ場が乾き、11月中旬から一斉に各地域でコンバインが稼働し始めました。J A仙台の大豆センターには次々と大豆がフレコンバッグで運び込まれ、収穫作業が本格化しています。

今年を着実が概ね良好で、収量を期待する生産者の声が聞かれます。普及センターでは、良質な大豆を実需者・消費者に届けられるよう、今後も生産者の取組を支援していきます。

○大豆の刈取に向けた現地検討会が開催されました

令和3年11月17日

石巻農業改良普及センター



11月上旬に、J Aいしのみき各営農センター主催による大豆の収穫に向けた現地検討会が開催されました。

石巻管内は県内有数の大豆の産地です。県内の作付面積の19%にあたる約2,000haで大豆が作付され、品種は主に中生のタンレイ、中生の晩のタチナガハ、晩生のミヤギシロメが栽培されています。普及センターでは各地区の現地検討会に参加し、刈取時の注意点や今年度の生育概況、来年作の管理のポイントなどを生産者の方々に説明しました。

検討会では、3品種の中で最も早く収穫されるタンレイを中心に、子実水分や茎水分、外観やほ場の状態などから刈取適期の検討を行いました。子実水分を測定したほ場では、子実水分が16%~19%程度で、収穫の目安とされる15~18%に近い値でしたが、茎水分がまだ高く、刈取まであともう少しというほ場が多く見られました。参加した生産者は、刈取や来年作以降に向けて、熱心に検討を行っていました。

大豆の刈取は11月中旬から本格的にスタートします。普及センターでは、大豆の収量・品質の向上と安定生産に向けて、引き続き支援を行ってまいります。

○しゅんぎくの現地検討会が開催されました

令和3年11月29日

亶理農業改良普及センター



11月16日、亶理町逢隈地区のしゅんぎく現地検討会が開催されました。検討会にはJ Aみやぎ亶理野菜部会生産者30名程が参加し、マイクロバスで基肥ロング肥料の試験を行っているほ場を含め、3か所を順次視察しました。

生産者は久しぶりに開催された現地検討会に、互いに笑顔で情報交換を行っていました。視察の最後に、普及センターから、総評と今後の追肥管理、適切な肥培管理のための土壌分析の必要性について情報提供を行い、研修会を終了しました。

普及センターでは、引き続き野菜の安定生産を支援してまいります。

○株式会社イグナルファーム大郷で栽培振り返り検討会が開催されました 令和3年11月29日 仙台農業改良普及センター



11月19日、株式会社イグナルファーム大郷で、今春2回目の栽培振り返り検討会が開催されました。検討会には、当普及センターや農業・園芸総合研究所の職員が出席し、これまでのミニトマトの栽培管理状況や収量の推移、今後の管理等について、ウィークリーレポートなどをもとに社員と検討・意見交換を実施しました。

直近のウィークリーレポートからは、樹勢は概ね適正に管理できているものの、生殖生長から栄養生長へ急激にシフトする傾向が見られたことから、その要因（着果負担の減少など）について社員同士で議論し、今後の手入れ作業やハウス内環境の設定についても提案を出し合うなど、積極的に栽培管理への理解を深めようとする姿勢がうかがえました。当普及センター及び農業・園芸総合研究所からは、生殖生長へ傾けるための摘葉や温度管理等について、助言を行いました。

普及センターでは、巡回指導などの機会を通して、今後も引き続き技術的支援を行ってまいります。

○農事組合法人仙台イーストカントリーが令和3年度(第60回)農林水産祭にて天皇杯を受賞 令和3年11月30日 仙台農業改良普及センター



11月23日、東京都渋谷区の明治神宮会館において令和3年度(第60回)農林水産祭式典が開催され、農林水産祭の最高の荣誉である天皇杯が、仙台市の

農事組合法人仙台イーストカントリーに授与されました。昭和37年から開催されている農林水産祭における農業分野での天皇杯受賞は、宮城県内で3例目であり、20年ぶりの受賞になります。

農林水産祭は、農林水産物の収穫を感謝し、国民に農林水産業に関する認識を深め、農林水産業者の技術改善や経営発展へ寄与することを目的に開催され、過去1年間の農林水産祭参加表彰行事における農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、多角化経営、むらづくりの7部門の農林水産大臣賞受賞者の中から天皇杯等三賞(天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞)が選ばれます。

イーストカントリーは、令和2年度の第50回日本農業賞において農林水産大臣賞を受賞しており、天皇杯等三賞の候補となっていました。今回、各表彰事業の農林水産大臣賞受賞者346点の中から、農産・蚕糸部門での天皇杯を受賞されました。東日本大震災からの復興の牽引役として、消費者ニーズに応えるための米の多品種栽培や低コスト・省力化栽培、「おにぎり茶屋ちかちゃん」をはじめとする6次産業化への取組と女性の活躍等が高く評価されての天皇杯受賞となりました。

②新たな担い手の確保・育成

○第2回「女性農業者活躍支援研修会」を開催しました 令和3年11月1日 登米農業改良普及センター



10月22日に、登米市迫町のアルテラスおおあみで、世代を超えた女性農業者が参加し、若手が先輩から農業や農家生活等を学ぶ女性農業者活躍支援研修会を開催しました。2回目となる今回は、農業法人に就職した2人の若手女性農業者も参加しました。

先輩方にとって農業法人への就農という形態は、自分たちの時代にはなかったことから関心が高く、様々な質問が出ていましたが、自身の経験に基づく助言やエールも送られていました。また、活躍事例として、アグリレディーズネットとめの及川さよ子さんから、先代から50年続くきゅうり栽培の工夫や、農業員会等の社会参画に対する家庭の理解、夫婦円満の秘訣などが紹介され、和やかな雰囲気ではじめました。さらに、起業を目指している3人が、及川さよ子さんが育てたきゅうりを使った7品の料理を作り、それを地中海・中近東発祥のピタパンに包んで食べるという、きゅうり料理の新たな可能性に、参加者は驚きながら情報交換が行われました。

今後とも、普及センターでは、女性農業者の世代を超えた交流や異業種とのマッチングなど、女性農業者の社会参画を支援してまいります。

○石巻地区4Hクラブ10月青空市の開催
令和3年11月1日
石巻農業改良普及センター



10月26日、石巻合同庁舎ロビーにおいて、石巻地区4Hクラブ10月青空市を開催し、若手農業者のクラブ員が栽培した新鮮な野菜等を直売して、消費者交流を行いました。

雨が降りあいにくの天気でしたが、寒くなり鍋物のねぎやサラダに合うブロッコリーが人気で、一般市民や合庁に勤務する職員など71人のお客様が訪れ完売、好評でした。

コロナ感染症防止のため、アクリル板の設置や手指消毒、会計機を離すなど対策を講じながら、青空市を開くことができました。

**○大崎市岩出山下真山地区農地整備事業に係る
土壌調査を行いました**
令和3年11月4日
大崎農業改良普及センター



10月27・29日に、普及センターのプロジェクト課題対象地域であり、農地整備事業が予定されている大崎市岩出山下真山地区において、整備事業の工法を決めるための土壌調査を、各関係者と連携して行いました。

当日は、下真山地区推進委員会・大崎市・北部地方振興事務所農業農村整備部と普及センターが役割分担をして調査に臨みました。各ほ場から専用の器具（検土杖）を用いて採取した土を、普及指導員が区分・分類し地図へ記録しました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携して、農地整備事業を契機とした、新たな活力ある地域農業の体制づくりに取り組んでいきます。

○みやぎ農業未来塾「農業力資質向上講座」を開催しました
令和3年11月11日
亘理農業改良普及センター



11月8日、当管内でいちごを栽培する新規就農者等を対象に、いちご栽培管理技術の向上を図るとともに、新規就農者相互の交流を推進することを目的とした「農業力資質向上講座」を開催しました。

今回は、管内で栽培されている主な3品種（もういっこ、にこにこベリー、とちおとめ）を栽培する先進的経営者を訪問し、栽培管理等に関する視察研修を行いました。当日は20名を超える新規就農者等が参加し、視察研修先では、栽培管理や施設設備等に関する活発な意見交換が行われました。

普及センターでは、引き続き、現地指導等により新規就農者の支援を行ってまいります。

○みやぎ農業未来塾 地域交流講座「果樹編」を開催しました
令和3年11月11日
大河原農業改良普及センター



10月27日、管内の若手果樹後継者を対象に、農業技術、経営管理、流通・経営戦略等を学び、仲間づくりを進めるため、登米市で「みやぎ農業未来塾地域交流講座果樹編」を開催しました。

本講座には、大河原管内のほか、亘理地域と登米地域の若手果樹生産者11人が参加し、登米市のりんご園経営者3人の園地の視察研修を行いました。1か所目はジョイントV字型樹省力栽培の導入により作業性及び経営向上を図っている取組、2か所目は早期摘蕾・摘果等による高品質果実栽培の取組、3か所目は直売所を核とした販売戦略を展開している取組について研修を行いました。

登米市内のりんご生産者は、登米地域果樹産地協議会を設置し、果樹経営支援対策事業を活用して新技術を導入するなど、りんご生産にかける産地の勢いが感じられました。また、総合検討では、各産地の病虫害防除や販売方法などについて積極的な情報交換を行い、産地間の交流が深まりました。

今回の地域交流講座は、若手果樹後継者が他産地の栽培技術や販売戦略について知る良い機会となり、今後、各自の栽培や経営の改善に役立つことが期待されます。

○登米地区農村生活研究グループ生活改善実績
交流交歓会を開催しました
令和3年11月17日
登米農業改良普及センター



11月12日、登米地区農村生活研究グループの生活改善実践交流交歓会を、登米市中田町の石森ふれあいセンターで開催しました。昨年のスマホ教室に続き、今年は農業や料理に活用できるスマホアプリの使い方について、グループ員9名が学びました。

当日は、普及センター職員2名が講師となり、病害虫診断アプリの「レイミーのAI病害虫雑草診断」を用いて、写真からAI診断と有効薬剤の検索を行いました。また、料理検索アプリの「クックパッド」で、レシピの絞り込みから調理方法の検索までを紹介しました。参加者は、実際にタブレットで操作を体験しました。研修後、検索した料理「もちもちれんこんもち」を代表者が調理し、昼食時に試食しながら情報交換を行いました。

参加者からは、「病気もスマホで診断できる時代になったんですね」、「野菜など材料からのレシピ検索も学ぶことができ、料理のレパートリーが増えました」と好評でした。

○巨理名取地区農村青少年クラブ連絡協議会が
先進地視察研修を開催しました！
令和3年11月19日
巨理農業改良普及センター



11月9日、巨理名取地区農村青少年クラブ連絡協議会が先進地視察研修を開催し、5名が参加しました。

視察先は福島県大熊町の(株)ネクサスファームおおくまで、環境制御システムを導入した大規模いちご栽培について見学しました。参加したクラブ員は全員いちご農家であり、栽培システムや作業労働に関する多くの質問がありました。また、クラブ員同士でも活発な情報交換があり、交流を深めていました。

普及センターでは、今後も当会の活動を支援してまいります。

○大崎地域農村生活研究グループ連絡協議会の
第3回役員会を開催しました
令和3年11月22日
大崎農業改良普及センター



大崎地域農村生活研究グループ連絡協議会では、会員が生産・販売している野菜をレストランのシェフに調理してもらって味わうとともに、栽培方法などの情報交換を行う料理研修会を毎年開催しています。今年は「冬野菜」をテーマに研修会を計画しているため、会員が提供可能な冬野菜のリストアップと、研修会の日程を検討する目的で、第3回役員会を開催しました。会員からは、提供可能な冬野菜として24種類もの候補が挙げられ、地域で生産している野菜の多様さがうかがえました。

研修会は、大崎市古川のアインパルラ浦島にて開催され、会員の生産した冬野菜がプロの手によって-halfコースのランチに変身する予定です。

普及センターでは、今後も生活研究グループの活動を支援していきます。

○みやぎ農業未来塾「土壌の基礎知識」研修会を
開催しました
令和3年11月24日
登米農業改良普及センター



11月16日に、就農5年目以内の新規就農者を主な対象として、土壌の基礎知識を学ぶみやぎ農業未来塾「土壌の基礎知識」研修会を登米合同庁舎で開催しました。

講師に農業・園芸総合研究所の職員を招き、①作物栽培に良い土、②土壌物理性の調べ方と改善法、③土壌pH・ECの特徴、土壌分析結果と作物への影響などを分かりやすく解説していただきました。大学の講義さながらの豊富な内容にもかかわらず、参加者は熱心にメモをとり、前向きに知識を習得する様子うかがえました。

研修会終了後、参加者からは、土壌の基礎を改めて確認することができたという感想が聞かれたほか、ICT技術や農業機械・農作業安全に関する研修等の要望がありました。

○女性農業者がトラクターと刈払機のメンテナンスや操作方法を学びました
令和3年11月26日
仙台農業改良普及センター



11月10日に農業・園芸総合研究所で開催された「輝け農業女子！機械セミナー」に、管内から3名の女性農業者が参加しました。

セミナーでは、(株)クボタの講師から農業機械のメンテナンス等について講義を受けた後、ほ場での操作実習が行われました。参加者は「いざという時のために自分も使えるようになっておきたい」、「トラクター作業を委託しているが、自分で作業できるようにになりたい」と意欲的に説明を聞いていました。

実習用の機械は、車の運転と同様の感覚で操作がしやすい仕様になっているトラクターや、女性に使用したいと思わせるデザインの刈払機もあり、参加者は「これなら自分でも簡単に操作できる」、「こんな機械を購入したい」と話していました。今後、女性が率先して農業機械作業に取り組むことが期待されます。

○有壁創生会・有壁新町営農組合第2回法人化研修会
令和3年11月30日
栗原農業改良普及センター



栗原市金成有壁地区では、ほ場整備事業を契機に地域農業を担う法人設立の機運が高まっており、ほ場整備の進捗とともに、法人を中心に農地集積を進めていくこととしています。

11月18日に「農地中間管理事業を活用した効果的な農地活用」をテーマに研修会を開催しました。研修会では、栗原市役所職員、みやぎ農業振興公社地域コーディネーターを講師として、農地中間管理事業や集積協力金の仕組み、活用時の注意点、実際の手順などについて勉強しました。役員達が事業の内容や手順を学ぶことで、事業を活用するには個々でどんな準備が必要か、また、構成員への周知はどのようにしていくかなど、法人化のスケジュールと併せて検討することができました。今後は、法人の運営の要となる事業計画を検討しながら、法人化に向けて具体的な話し合いを進めていきます。

③先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援

○アグリテックアドバイザー派遣事業を活用したほ場管理システム(KSAS)の研修を実施しました
令和3年11月5日
石巻農業改良普及センター



宮城県ではICT技術を活用したスマート農業の普及推進を図るため、スマート農業に精通した専門家を派遣する「アグリテックアドバイザー派遣事業」を実施しています。

10月29日に、当管内の農業法人である株式会社ばるファーム大曲が本事業を活用しました。今回はアドバイザーである株式会社アグリ東北の鈴木健也氏から、ほ場管理システム(KSAS)の導入や活用方法について指導・助言をいただきました。

前半は、石巻合同庁舎の会議室において、KSASのセットアップ(ほ場、社員、農業機械等の登録)や、社内での情報共有(作業指示の送信と受信方法、作業の進捗状況の確認)、収量・食味コンバインと可変施肥田植機の連携による取得データの活用方法について説明を受けました。その他、実用場面での工夫として、システムに慣れるために毎朝の打ち合わせでKSASを利用していること、情報漏洩対策として経営に関する情報は共有しないこと、スマホを所有していない社員の対応として紙媒体での作業指示も残していることなども紹介されました。

後半は、(株)ばるファーム大曲の施設へ会場を移して、実際のパソコンの画面上の確認や、KSASと連携したコンバインなどを視察しました。

本研修には、(株)ばるファーム大曲から、代表や若手社員を含めた計7人が参加しました。今後、社内において、ほ場登録などのセットアップ作業を進め、令和4年度からの作業計画に活かしていく予定 です。

○第3回栽培コンサルティング技術高度化セミナーが開催されました
令和3年11月16日
仙台農業改良普及センター



11月10日、松島町のトマト生産法人であるマキシマファーム株式会社において、第3回栽培コンサルティング技術高度化セミナーが開催されました。このセミナーは5回シリーズで、高度環境制御設備を導入した農業法人等の単収向上並びに栽培責任者、JA営農指導員及び普及指導員の技術力向上をねらいとしています。

セミナーは、午前と午後の2部構成で行われました。午前は株式会社デルフィージャパンのコンサルタントによる現地コンサルティングが行われ、生殖生長を促す中位葉の葉かきや早朝加温の重要性のほか、裂果対策として施設内の湿度管理について助言がありました。午後は「灌水」をテーマに座学研修が行われ、灌水量は日射量に応じて決定することや、一日のなかで最終の灌水が根への酸素供給に重要であること等の説明がありました。マキシマファームの構成員からは、環境制御や生育との関係などについて積極的に質問する姿がみられ、技術向上への熱心が伝わってきました。

普及センターでは、このセミナーを通じて得た知識・技術を基に、管内の環境制御設備を導入している生産者の生産性向上のため、引き続き技術的支援を行っていきます。

○ほ場管理システムの有効活用を目指し研修会を実施しました

令和3年11月19日

巨理農業改良普及センター



11月11日、当普及センター管内の農業法人が、県が実施する「アグリテックアドバイザー派遣事業」を活用し、ほ場管理システムの研修会を実施しました。

アドバイザーである株式会社日本能率協会コンサルティングのコンサルタントからは、システムと連動した収量コンパインのデータを、過去のデータと比較して分析することで、ほ場単位での収量の増減を可視化することができ、収量変動の要因を法人内で検討することで、次年度に向けて改善点等を共有できるとの助言がありました。また、農作業データを入力するにあたって、入力者によって差がつかないように入力ルールを整備することや、作業項目ごとに作業時間を分析する方法についての説明がありました。

対象法人では、アドバイザーからの指導・助言をもとに、ほ場管理システムの更なる有効活用を進めていくこととしており、普及センターでも、引き続きアグリテックの拡大に向けて支援してまいります。

④園芸産地の育成・強化支援

○カーネーションのIPM・産地表示販売検討会を開催しました

令和3年11月2日

巨理農業改良普及センター



名取市花卉生産組合のカーネーション生産者は、化学合成農薬だけに頼らず天敵を活用する等、様々な技術を併用して病害虫の発生を抑制するIPM(総合的病害虫管理)と、消費者が産地名を認識して切り花を購入することができるよう、販売段階で産地名を表示する産地表示販売の実証に取り組んでいます。

普及センターでは、10月22日に、カーネーションIPM・産地表示販売検討会を名取市高柳集会所等で開催し、各テーマの今年度上半期の実証結果を生産者と関係機関で共有して、今後の取組に向けた意見交換を行いました。

IPMの検討では、普及センターによる天敵を用いたハダニ防除対策等の結果報告に加え、4名の実証農家から、取組内容や効果について説明をいただきました。また、産地表示販売の検討では、今後予定している産地紹介用のしおり作成や、販売実証の計画についての検討を行いました。各テーマとも出席者から数多くの報告や意見があり、活発に情報交換が行われ、有意義な検討会になりました。

普及センターでは、今後も、新たな栽培管理技術や販売手法の導入に向けた支援を行っていきます。

○スナックえんどう栽培講習会が開催されました

令和3年11月8日

栗原農業改良普及センター



10月19日、JA新みやぎ栗っこ瀬峰野菜集荷場でスナックえんどう部会の栽培講習会が開催され、生産者11名、種苗会社、普及センターの担当者が参加しました。

種苗会社からは、栽培管理方法として、根張りをよくすることと、株元まで光が十分入る風通しの良い環境づくりがポイントであることや、天候に合わせた追肥や灌水の留意点について説明がありました。

普及センターからは、スナックエンドウに発生する病害虫の特徴と防除のポイント、農薬のローテーション散布について説明しました。参加者からは、農薬の散布方法について質問や意見があり、病害虫防除に対する意識を高めることができました。

普及センターでは、今後もスナックエンドウの安定生産に向け支援を行っていきます。

○山元町でトマト栽培のグローワー技術交流会が開催されました！
令和3年11月8日
巨理農業改良普及センター



10月27日、山元町の(株)やまもとファームみらい野を会場に、園芸推進課主催のグローワー技術交流会が開催されました。みやぎ環境制御技術交流ネットワークに加入している大規模トマト生産法人7法人から参加があり、講師は(株)やまもとファームみらい野の園芸部長の関氏が務めました。

現地視察では、関氏が施設の概要や栽培のポイントなどについて、施設内を案内しながら説明しました。また、室内の情報交換では、各法人の取組の紹介に加え、質問事項への回答などを関氏や農業・園芸総合研究所の担当者が行い、技術導入の判断基準や品種の考え方等について情報交換し、参加した各法人にとって大変有意義な交流会になりました。

今後とも、普及センターでは、園芸推進課等と連携し、園芸産出額の向上に寄与できるよう支援してまいります。

○JAみやぎ亘理いちご栽培講習会が開催されました！
令和3年11月8日
巨理農業改良普及センター



10月29日、吉田地区と山下地区の2か所の生産者ほ場で、JAみやぎ亘理いちご部会の栽培講習会が開催され、約100名が参加しました。

普及センターからは、保温開始時期以降の栽培管理という内容で、養液管理や暖房機・カーテンを用い

た温度管理、炭酸ガス発生機や電照の使い方等について説明を行いました。また、アリストライフサイエンスの担当者から、ハダニ類やアザミウマ類の天敵防除のポイントやマルハナバチの使い方について説明がありました。

JAみやぎ亘理では、10月18日からいちごの初出荷が始まり、徐々に出荷量は増えている状況です。普及センターでは、引き続き、いちごの安定生産に向けて、栽培支援を行っていきます。

○登米市産花きと生花店のコラボ企画第4弾「ハロウィン」特別販売会開催
令和3年11月9日
登米農業改良普及センター



登米市は、花き生産額が県内でもトップクラスで、様々な切り花や鉢物が生産されています。

これまで登米普及センターでは、登米市内の花き生産者や生花店と連携した商品づくりを企画・提案し、令和2年11月の「いい夫婦の日」から計3回、関係職員向けの試験販売会を実施してきました。今回は、新たな消費拡大のため「ハロウィン」向け商品を企画し、10月15日の職員向け販売に続き、10月30・31日に一般向け予約販売を初めて実施しました。

普及センターでは、生産者や生花店とアイデアを出し合い、「ハロウィンの魔法をかけた可愛いお花でお家パーティを楽しみませんか？」をテーマとした商品を企画・提案しました。地元産の切り花を生花店のプロの技で綺麗にアレンジした「魅惑のハロウィンアレンジメント」をはじめ、ユニークなネーミングの商品を多くの方々に購入していただきました。

今回の試験的な取組により、様々な課題を確認することができました。さらに、商品を購入した市民の方からは、地元の花を使った今までにない取組なので、今後も継続して欲しいとの声をいただきました。

今後も、普及センターでは、花の産地「登米市」のPRや地元産花きの販売促進を通じ、花きの生産振興を行ってまいります。

○やもといちご生産組合現地検討会に参加しました
令和3年11月11日
石巻農業改良普及センター



やもといちご生産組合は、石巻管内で主要ないちご部会の一つであり、いちご栽培の重要な担い手となっています。現地検討会ではほ場7か所を巡回し、その後に総合検討を行いました。定植を終えて1ヶ月以上が経過し、ほとんどのほ場で頂花房の開花が見られ、炭酸ガス処理、電照を開始しています。定植後の天候が良かったことで、生長が進んでおり、収穫開始が例年より前倒しになると考えられます。

やもといちご部会には環境制御技術の関心が高い生産者が多く、今年度は5つのほ場で測定装置を入れる予定となっています。そこで、普及センターからは、こまめに環境データをチェックすることで、平均気温を15℃ほどに保ち、夜温があまり高くないような温度管理を心掛けるよう指導を行いました。

普及センターでは、今後も定期巡回指導等を通して、いちごの収量・品質の向上を支援していきます。

○岩沼ハウス組合抑制きゅうり出荷検討会と第50回通常総会が開催されました！ 令和3年11月22日 亘理農業改良普及センター



11月16日、岩沼ハウス組合の抑制きゅうり出荷反省会と通常総会が開催され、7名が出席しました。

反省会では、抑制栽培の生育状況や病害虫対策について、各組合員から説明がありました。今作は新品種導入や炭酸ガス施用、徹底した病害虫防除等により、前年より出荷量を増加させることができました。また、課題となった点については、組合員と普及センターで情報交換を行い、次作の促成栽培に向けての改善等が見つかり、有意義な反省会となりました。

反省会後は、50回目となる通常総会が行われました。岩沼ハウス組合は、創立から50年という歴史のある組合で、これまで栽培技術の研磨に励み、組合を継続させてきました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、きゅうりの収量向上や組合の発展に向けた支援を行います。

○枝もの用クロマツの収穫・調製作業開始 ～出荷第1弾は台湾へ～ 令和3年11月24日 気仙沼農業改良普及センター



南三陸町の(株)南三陸 Pine Proが栽培する枝もの用クロマツ（若松）の初の収穫作業がいよいよ10月26日から開始され、お正月用の出荷に向けて日々調製作業が行われています。収穫を迎えるにあたり、事前に市場担当者や県関係機関とともに出荷規格検討会を開催し、市場等のニーズに合わせた出荷規格を設定し作業を進めてきました。

収穫されたクロマツは調製場で約20種類の規格に選別された後、水揚げ・保管され、主に大阪鶴見花き地方卸売市場で12月6日に開催される「松市」に向けて出荷される予定です。

また、11月10日には、一足早く第一弾が初出荷となりました。台湾のお正月「春節」需要を狙ったもので、海を越えて台湾市場へ輸出され、県産若松が海外でも使用されます。

収穫された若松の品質については市場担当者からもお墨付きをいただき、生産者も手応えを感じながら順調に作業を進めています。慣れない作業ながらも調製場は活気に溢れ、南三陸地域の新たな園芸品目として盛り上がりを見せています。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○大豆種子のほ場審査を行いました 令和3年11月1日 大崎農業改良普及センター



大崎市内において、大豆の種子を生産する「採種ほ」のほ場審査を行いました。県は「主要農作物種子条例」に基づく種子審査を行っていますが、これは種子を生産するほ場及び作物に対して、ほ場での審査と、そこから収穫された生産物の審査の2種類の方法で行います。

大豆のほ場審査は、第一期が開花期（8月頃）、第二期が成熟期（10月頃）に実施されます。主な審査内容は、①異種・異品種・変異株を含まないこと、②種子伝染性の病虫害を含まないこと、③雑草が少発生であることです。

今回の第二期審査では、普及センターの担当者がほ場の外側を回りながら審査を行いました。一部ほ場で雑草の発生があったものの、ほとんどのほ場で合格基準を満たす結果となりました。

採種ほ場で生産される種子は、来年の作付用に多くの農家に供給されるので、種子生産は大変重要です。普及センターでは、優良な大豆種子生産に向けて、引き続き支援を行っていきます。

○新米販売会を開催しました
令和3年11月2日
石巻農業改良普及センター



10月20日、石巻合同庁舎で令和3年産新米の販売会を開催しました。

この販売会は、石巻地域産の新米の販売促進のために、水産漁港部が毎月第3水曜日に開催している「みやぎ水産の日販売会」に合わせて実施したものです。当日はJ Aいしのみまきの協力のもと、「だて正夢」と環境保全米の「ひとめぼれ」、「ササニシキ」を販売し、大変好評でした。

コロナ禍による販売不振や米価下落など、県産米を取り巻く環境は厳しい状況が続いていますが、今後も各種販売会の開催等により、継続的な販売促進を支援していきます。

○アスパラガス栽培管理勉強会の開催
令和3年11月24日
石巻農業改良普及センター



11月17日、東松島市の株式会社パスカファーム立沼で、パイオニアエコサイエンス株式会社の松永邦則氏を講師に、アスパラガス栽培管理勉強会（黄化刈取り・育苗編）を開催し、生産者等23人が参加しました。

松永氏からは、これからのアスパラガスの管理について、詳細な指導がありました。また、育苗ハウスでは、電熱温床線とトンネル保温設備を見ながら、育苗管理について丁寧に教えていただきました。

参加者らは、8月中旬以降の茎枯病等の発生に苦労しましたが、貯蔵根の充実を図るため適期に黄化刈取り作業を行い、春の萌芽・収穫に向け、営農意欲が高まったようでした。

○岩沼市でばれいしょ生産拡大推進研修会が開催されました
令和3年11月29日
巨理農業改良普及センター



11月26日、岩沼市役所において、令和3年度ばれいしょ生産拡大推進研修会が開催されました。本研修会は「みやぎ園芸特産振興プラン」の重点推進品目である「ばれいしょ」について、仙台圏域での生産拡大を図ることを目的に開催され、生産者と農協、市、県関係者のほか、カルビーポテト(株)など、計20名の参加がありました。

カルビーポテト(株)からは、宮城県におけるばれいしょ栽培の強みや栽培契約の流れ、栽培に必要なほ場・設備等の説明がありました。また、県園芸推進課からは、栽培のメリットや活用可能な交付金・補助金等、農業・園芸総合研究所からは、ばれいしょ導入のためのシミュレーション等が紹介されました。

ばれいしょは、今年の米価の下落を受け、農業経営を安定化させる露地園芸品目の一つとして位置づけられています。また、カルビーポテト(株)との契約栽培により、販路と単価が安定していることも魅力であることから、参加者からは、導入に向け、契約内容を中心に多くの意見交換が行われ、有意義な研修会となりました。

普及センターでは、管内の園芸振興に向け、各関係機関と協力し、露地園芸品目の生産拡大を支援していきます。

2. 農畜産物の安定供給

①時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○匠の農産物フェアが開催されました
令和3年11月25日
栗原農業改良普及センター



11月19日、栗原合庁内で、栗原農業士会が「匠の農産物フェア」を開催しました。

農業士会と栗原普及センターは、「いい夫婦の日 11/22」・「勤労感謝の日 11/23」の機会を捉え、農業士会会員それぞれが生産する農産物を集め、コロナ禍でも楽しめる食材提案を行うとともに、栗原産農産物の消費拡大に繋げるための予約販売会を企画し、この日の販売となりました。

地元の定番に加え、生産量が限られる農産物も販売され、予想を超える販売量があった品物もあり、消費者、生産者それぞれ得るものが多い行事となりました。

○令和3年産大豆の適期刈取に向けた現地検討会が開催されました
 令和3年11月29日
 美里農業改良普及センター



刈取時期を目前に控え、田尻地区は11月1日、小牛田地区は2日、松山地区は4日、鹿島台地区は5日、南郷地区は8日、涌谷地区は9日と、管内各地で大豆の現地検討会が開催されました。

現地検討会では、参加者のほ場を巡回して大豆の登熟状況を確認しながら、子実及び茎の水分を調査し、ほ場ごとの収穫時期を判断しました。今年、着莢が良く、子実水分は順調に低下していましたが、一部で茎の枯れ上がりが遅れる青立ち株が多く見られるなど、茎水分の低下が遅れている状況でした。

大豆の刈取では、汚粒混入による品質低下防止の観点から茎水分の低下が必要であるため、今後も現地活動を継続して支援していきます。

〈令和3年度農林産物品評会〉

○令和3年度農林産物品評会が開催されました
 令和3年11月24日
 農業振興課



10月23日～24日に、せんだい農業園芸センターにて、県内農林産物の生産振興を図ることを目的に、農林産物品評会および花き品評会を開催しました。

出品された農林産物のうち、各部門で最も優れたものに農林水産大臣賞が授与され、受賞農作物を含めた県内各地の農産物を展示いたしました。

今年度の農林水産大臣賞受賞者は以下の方たちになります。

- ◆**令和3年度宮城県農林産物品評会 農林水産大臣賞**
- ・農産部門：水稲（うるち玄米）
石巻市 農事組合法人みのり
- ・園芸（果実）部門：日本なし 蔵王町 山家 一彦
- ・園芸（野菜）部門：ねぎ 栗原市 片倉 栄治

なお、農産部門（水稲）で農林水産大臣賞を受賞した農事組合法人みのりは、翌年度の新嘗祭献穀を行う予定です。

○宮城県農林産物品評会及び花き品評会で気仙沼管内生産者5人が入賞しました！
 令和3年11月1日
 気仙沼農業改良普及センター



10月23日～24日に宮城県農林産物品評会及び花き品評会が開催され、気仙沼管内からは、農産物及び花きで合計18点が出品されました。

前日の22日に水稲部門、果実部門、野菜部門（根菜類、葉茎菜類、果菜類）及び花きにおいて審査が行われ、審査の結果、管内では下記の5点が入賞を果たし、生産者の日々の努力が報われた結果となりました。受賞された皆様、大変おめでとうございます。

- ◇野菜（葉茎菜類）部門：ほうれんそう
佐藤徳郎さん（南三陸町）
知事賞2等、宮城県園芸協会会長理事賞
- ◇野菜（葉茎菜類）部門：こまつな
星達哉さん（南三陸町） 知事賞3等
- ◇輪ぎく 及川誠司さん（南三陸町）
金賞、全国農業協同組合連合会宮城県本部長賞
- ◇輪ぎく 遠藤吉司さん（南三陸町） 銀賞
- ◇シクラメン（有）気仙沼園芸（気仙沼市） 銀賞

○宮城県花き品評会で管内のビオラが金賞を受賞しました
 令和3年11月4日
 仙台農業改良普及センター





10月23～24日、せんだい農業園芸センターで、令和3年度花き品評会が開催されました。昨年度に続き今年もコロナ禍で、例年とは異なる状況の中での開催となりましたが、県内各地域から品質の高い花きが120点出品されました。

当普及センター管内からは10点の出品があり、仙台市の佐藤清敬さんの花壇用苗物「ピオラ（ももか）」が金賞を、多賀城市の佐藤敏充さんの鉢物「ユーカリ（シルバードロップ）」と大衡村の齋藤芳行さんの切り花「宿根かすみそう（アルマイル）」が銀賞を受賞しました。おめでとうございます。

○令和3年度宮城県農林産物品評会 水稲(うるち玄米)の部で農事組合法人みのり(石巻市北上)が「農林水産大臣賞」を受賞しました！
 令和3年11月11日
 石巻農業改良普及センター



11月8日、令和3年度宮城県農林産物品評会の農林水産大臣賞表彰状授与式を、宮城県東部地方振興事務所にて行いました。本品評会は、農業者の生産意欲の高揚と生産技術の向上を図り、農林産物の生産振興に寄与することを目的に、10月23日・24日に「せんだい農業園芸センター」で開催されました。

石巻市北上の農事組合法人みのりは「ササニシキ」と「だて正夢」の2品種を出品しました。その結果、水稲(うるち玄米)の部にて、「ササニシキ」は1席となり農林水産大臣賞及び知事賞1等、「だて正夢」は3席となり宮城県農業協同組合会長賞及び知事賞3等を受賞しました。なお、宮城県農業協同組合会長賞については、JAいしのまき本店にて授与式が行なわれました。

東日本大震災で津波の被害を受けた同法人ですが、本年度全面復旧を果たし、水稲96ha、大豆6.2ha、野菜30a、オリーブ4haを栽培しています。今回受賞した玄米は被災した北上のほ場で栽培しており、増収や品質を高めるため、耕畜連携により有機物を投入し、長年土づくりに取り組んだ成果が実りました。

○宮城県農林産物品評会ならびに花き品評会で農林水産大臣賞をダブル受賞
 令和3年11月29日
 栗原農業改良普及センター



10月23日、24日にせんだい農業園芸センターにおいて、令和3年度宮城県農林産物品評会および花き品評会が開催されました。農林産物品評会野菜部門でねぎを出品した片倉栄治氏(栗原市瀬峰)、花き品評会でディスプレイマムを出品した高橋伸勝氏(栗原市一迫)が、見事に農林水産大臣賞を受賞されました。今年度は農林水産大臣賞4点のうち2点を栗原管内が占める快挙となりました。

3. 持続可能な農業・農村の構築
① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○色麻町の特産物「えごま」の収穫が行われました
 令和3年11月1日
 大崎農業改良普及センター



色麻町の特産物である「えごま」の収穫が行われました。

今年は26haに作付けされ、苗の定植から中耕、収穫まで機械による作業体系が確立されています。収穫は、汎用コンバインという、大豆と共通で使えるコンバインで行なっています。

今年の「えごま」は、好天のため例年より大きく育ち、収量も昨年の2割増しとなり、品質も良好です。収穫された「えごま」は、選別後乾燥され、搾油して美味しいえごま油等に加工され、町内の直売所等で販売されます。

普及センターでは、今後も色麻町の特産品であるえごまの生産振興に向けて支援を行っていきます。

○河北せりがGI産品フェア in 東北に参加しました！

令和3年11月12日

石巻農業改良普及センター



地域の農林水産物や食品をブランドとして保護する国の「地理的表示（G I）保護制度」に登録された商品を販売する「G I 産品フェア in 東北」が、11月5日から7日まで仙台市青葉区の百貨店で開催されました。当管内でG Iに登録されている「河北せり」も参加し、石巻農業改良普及センターも販売支援を行いました。

初日の5日には、開催セレモニーが行われ、宮城県からの出店である「河北せり」の生産団体「河北せり振興協議会」（事務局：JAいしのまき河北営農センター）の担当者の発声で販売が開始されました。

3日間で合計 600 束の河北せりを販売し、消費者に茎の長さや根の白さについて、また、河北地域の豊富な地下水で育てている栽培状況等を紹介することが出来ました。販売期間中に複数回購入に訪れる消費者もおり、「河北せり」のおいしさもお伝えすることができました。

普及センターでは今後も、石巻地域の地域資源である河北せりの振興について、生産・販売支援を行ってまいります。

○「古川まごころ市」が開催されました！

令和3年11月19日

大崎農業改良普及センター



大崎市古川農産加工クラブ連絡協議会では、都市消費者との交流をはかり、農業への理解を深めてもらうため、仙台市の勾当台公園市民広場を会場に、恒例の「古川まごころ市」を開催しました。今年で 28 回目となるこの催しは、11月16日・17日の2日間開催されました。

「古川まごころ市」では、会員が丹精込めて作った新米やだいこん・白菜などの秋野菜、みそ・漬物・もちなどの農産加工品が数多く販売されました。来場者の中には生産者と顔なじみの客もみられ、和やかな雰囲気の中で買い物を楽しんでいました。

普及センターでは今後も農産加工に取り組むグループの活動を支援していきます。

○「JA新みやぎ南三陸地区本部農産物共進会及び表彰式」が開催されました

令和3年11月24日

気仙沼農業改良普及センター



11月14日に、JA新みやぎ南三陸地区本部農産物共進会及び表彰式が、気仙沼営農センター特設会場で開催されました。例年同日開催されていた「JAまつり」は新型コロナウイルスの影響で中止となりましたが、生産者の営農意欲の向上に繋げるため、共進会単独で開催されました。

従来、出品物は気仙沼市内から集めていましたが、今年は南三陸地区本部管内（気仙沼市、南三陸町、登米市津山町）に広げ、野菜の部 168 点、果実の部 68 点、穀類の部 14 点の合計 250 点が出品されました。

4月の低温により一部作物で凍霜害が発生するなど、気象の影響が大きい中、多くの新鮮な農作物が出品され、いずれも甲乙付けがたい出来栄でした。審査には当普及センター職員等があたり、金賞5点（だいこん、ばれいしょ、ねぎ、パプリカ、りんご）、銀賞7点、銅賞15点を選定しました。午後には販売会があり、地場農産物の質の高さを地元消費者等に広く知っていただく良い機会となりました。

○集落農業の将来について意見交換！

～気仙沼市 表山田地区～

令和3年11月26日

気仙沼農業改良普及センター



11月14日、気仙沼市本吉町の表山田振興会館において、集落農業の将来について考える意見交換会が開催されました。

昨年は集落内の農地所有者 38 名にアンケート調査を実施し、「後継者がいない」、「農地は持っているが耕作はしていない」等の問題点が洗い出され、将来は「現状維持」または「農業をやめる」意向が多かったものの、集落農業を担う農業法人・組織ができれば協力したいという意見も出されました。これらの意見を受けて、担い手に農地を集約するにも、小区画農地が多く、大型機械を入れて効率化を図ることが難しいため、ほ場整備事業に取り組みたいとの気運が高まってきました。

当日は 17 名の農家が参加し、「農業の方向性」や「何を栽培するか」等、4 つのテーマについて自由に意見を出し合いました。参加者からは、担い手となる組織や法人への集約化や作業性の向上、有機米の栽培、米の他にも大豆やえだまめ・ねぎ・トマト等の園芸作物を栽培したいといった意見が出され、表山田地区で将来も農業をしたいとの参加者の思いが強くなりました。

今後、これらの意見を踏まえて、表山田地区の農地が維持・活用されるよう将来ビジョンを作成し、その実現に向けて検討を重ねていきます。

②大規模自然災害等からの復旧・復興に向けた支援

○オリーブの収穫が始まりました

令和3年11月2日

石巻農業改良普及センター



石巻市では平成 26 年からオリーブの栽培を行っており、現在、旧北上町、旧河北町を中心に 4 ha ほどの栽培面積があります。

今年は例年よりも生育が早まったことから、昨年よりも 20 日早い 10 月 25 日に収穫を開始しました。

最高級のオリーブオイルであるエキストラバージンオイルを製造するには、着色前の緑果を収穫し、速やかに搾油を行う必要があります。このため、当日は収穫から搾油までの一連の作業がスムーズに行えるよう、収穫と選果、搾油の各班に分かれて作業を行いました。

今年搾油されたエキストラバージンオイルは、仙台の百貨店で限定販売される予定となっています。まだ若木が多く収穫量が少ないため、今のところ販売できる数量は限られています。樹の生長とともに収穫量・販売量も増えていきますので、今後、石巻産のオリーブオイルをお見かけの際は、是非お求めいただき、御賞味ください。

4. その他

①要請・緊急対策、その他

○特定家畜伝染病防疫演習でサポート業務を行いました

令和3年11月8日

仙台農業改良普及センター



10 月 26 日、大和町総合体育館において「令和 3 年度特定家畜伝染病防疫演習」が開催されました。仙台地方振興事務所、仙台家畜保健衛生所、大和町等の共催で、豚熱や高病原性鳥インフルエンザが発生した際に、関係者が一丸となって迅速な対応ができるよう、初動防疫体制の確認を行ったものです。

普及センターはサポート班として、集合施設や農場前仮設テントの設営のほか、作業従事者の受付や防疫服の着脱サポートなどを行いました。また、備蓄資材倉庫から初動時に必要な 150 人分の防疫資材を積み込み、搬入や搬出する訓練も行いました。

当普及センターからは 12 人が参加（全体では見学者含め約 140 人参加）し、事後に打合せを行ったところ、「万が一発生したときの対応イメージができて良かった」、「体調不良者の発生や資材不足などを想定した連絡訓練も必要ではないか」などの意見が出されました。

今回の演習を活かし、万が一特定家畜伝染病が発生したときには円滑に防疫措置が図られるよう、体制づくりを進めていきます。